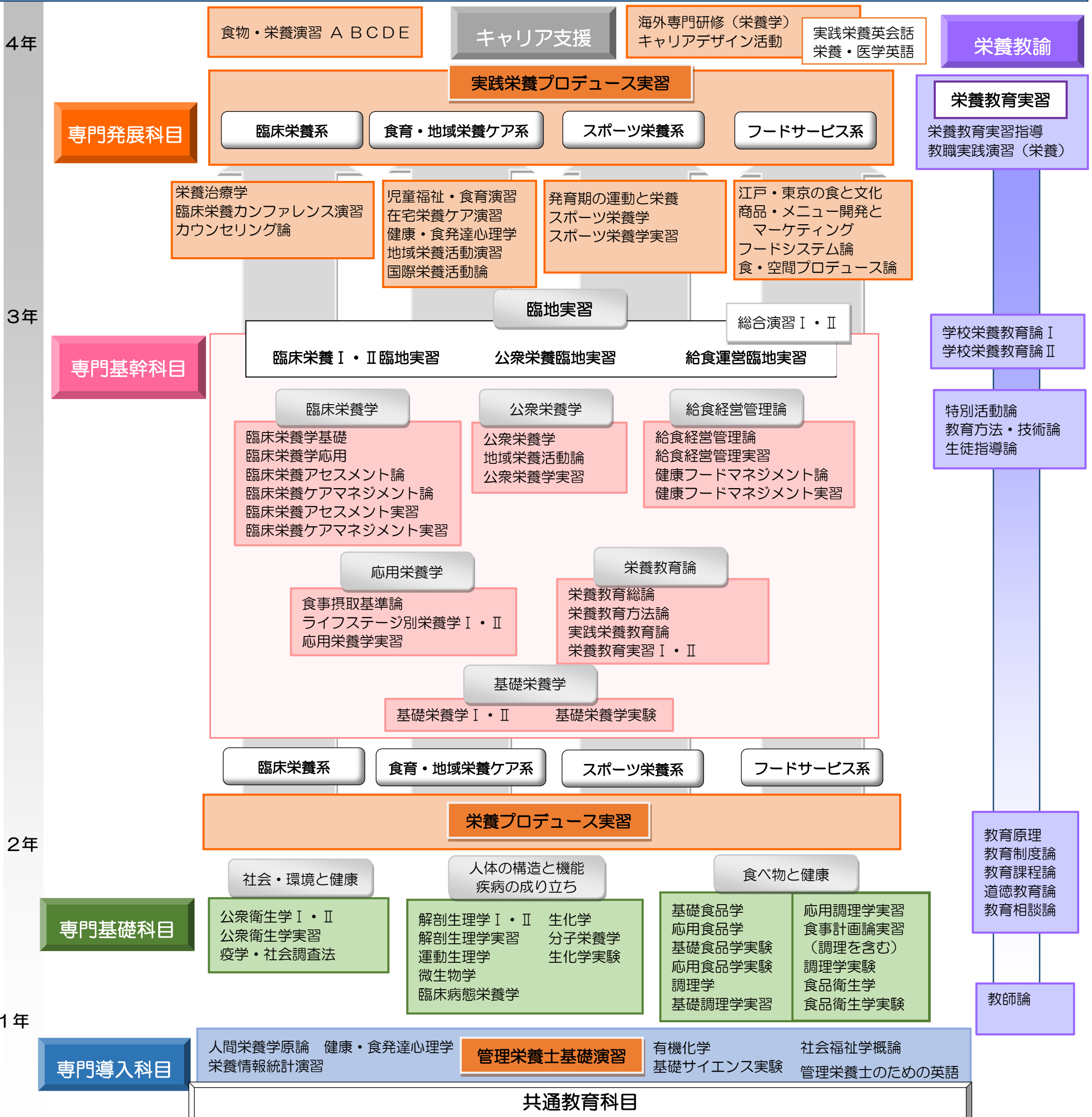


# 人間栄養学部人間栄養学科 カリキュラムツリー

## ■学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養」を学際的な視野で包括的に探究し、乳幼児から高齢者にいたるさまざまな人々の望ましい栄養・食生活が創造できる科学的素養を備えた者に学位を授与する。
- 多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。また、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。《知識・理解》
  - 学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。《思考・判断》
  - 人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。《関心・意欲・態度》
  - 専門領域の体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、栄養教育・活動のマネジメント、そのためのプレゼンテーション力、国際的コミュニケーション能力などの表現力を身につけている。《技能・表現》



## ■教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

- 教育・研究の方法として、人間、食物、そして地域との相互関係について、遺伝子レベル、組織・細胞レベル、生体・生理レベル、行動・活動レベル、地域レベル等の各レベルからアプローチし、人文科学・社会科学・自然科学の学際的な視点で「人間の栄養」を教育研究し、総合的に分析・理解できるカリキュラムを編成する。
- 管理栄養士に必要な知識と技術を段階的に修得できるよう、専門科目には、管理栄養士としての職業倫理を培い、動機づけにつなげる専門導入科目群、管理栄養士国家資格の必修科目にあたる専門基礎科目群・専門基幹科目群、さらに、卒業後の進路に向けた専門発展科目群を体系的に配置する。
- 専門発展科目群は、管理栄養士の主たる活動分野である「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4つの系統を配置する。
- 栄養管理に関わるコンピテンシーを自ら計画的に修得するため、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)、アクティブ・ラーニングを導入した学内外の実験・実習科目を配置し、実践力・応用力を養う。
- 学生が将来の進路先を見つけ出すことができるよう、早期から実践現場で知識・技術等を修得できる体験学習プログラムとして、1年次の「管理栄養士基礎演習」、2年次の「栄養プロデュース実習」、3年次の「臨地実習」、3・4年次のゼミナールとして問題発見・課題解決志向学習である「実践栄養プロデュース実習」を配置する。

## 人間栄養学部の設置にあたって

1923年に家政研究所を開設された大江スミ先生開学の日から、2023年に創立100周年を迎えます。その歴史と伝統の東京家政学院大学は、知識の啓発(K)、徳性の涵養(V)、技術の錬磨(A)を体得させて、良き社会人・家庭人を育成する建学の精神に則り、女子教育の先駆として取り組んできたところです。

1967年に本学家政学部家政学科に管理栄養士専攻設置の認可がされ、1964年に指定された栄養士養成施設は管理栄養士養成施設として指定替えされました。本年は、その50年が経過した年にあたり、1966年度入学者以来、約2,500人以上の管理栄養士を輩出して参りました。

管理栄養士は、「社会生活の発展向上に伴い、集団給食施設等、大量の食事を供給する施設における栄養の指導に関する業務は、複雑または困難なものが増加する傾向にかんがみ」<sup>1)</sup>という法案説明により、1962年に栄養士法が改正され、栄養士の上級資格としての管理栄養士制度が設けられました。

当時から、栄養学士の称号を授与する新しい栄養学科の基準を考えるにあたっては、「この栄養学科は、既設の学部の中に置かれても新しい学士号を授与できるためには、独立の学部になるだけの内容を有していなければならない。」また、「この栄養学科は、栄養に関する学術研究の新しい総合領域を対象とするものであって、既設の農学部、家政学部の栄養学科と内容を区別できるものでなければならない。」<sup>2)</sup>と管理栄養士学校の指定についての答申及び意見がなされました。

近年は、過剰栄養による肥満や生活習慣病と、若年女子のやせおよび、高齢者・傷病者の低栄養といった栄養障害の二重負荷の問題が日本のみならず世界でも指摘されています。また、食に関する価値観やライフスタイル等も多様化し、食の簡便化を含め、栄養素を摂取する方法と食事をおいしく、楽しく食べる方法の間かけ離れた状況が見受けられます。

そこで本学部は、次の4領域での人材の育成をめざします。1)医療チームの一員として、生活習慣病の治療に病態栄養学的視点からの栄養評価を正確に行い、生体の代謝にもっとも適した栄養管理および要介護高齢者に対する第三次予防と、2)食育・地域栄養ケアを担う一員として、優先的に取り組むべき健康・栄養課題の改善にむけて、行動変容につながる効率的・効果的な栄養指導を設定した目標に対する評価・検証、計画の修正ができる技術と、3)スポーツ栄養に携わる一員として、競技スポーツや健康増進のための身体活動に伴うエネルギー・栄養素・水分等の摂取方法に対応するための知識を基に、子どもの遊びやスポーツから高齢者の栄養面からの支援と、4)フードサービスの一員として、多様な形で加工・提供される食材の活用や消費者が食生活を自己管理できる正確な知識や判断力を養い、健康に望ましい食物・食品の生産及び食・栄養情報の発信ができる人材を育成します。

これらのために、今後も皆様方のご指導、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

人間栄養学部長 田中 弘之

### 参考

1) 第41回衆議院/社会労働委員会第4号(昭37.8.23)、第41回衆議院/本会議7号(昭37.8.24)、

2) 「管理栄養士学校の指定についての答申及び意見」(昭和42年5月4日厚生大臣坊秀雄あて栄養審議会委員長 木村忠二郎)